



2019年11月12日

第21回図書館総合展

「これからの学術情報システムの在り方」

日本の図書館の国際化へ向けて： 紀伊國屋書店とOCLC

(株)紀伊國屋書店

ICT営業本部

大野 繁治



紀伊國屋書店

世界の図書館が直面する課題

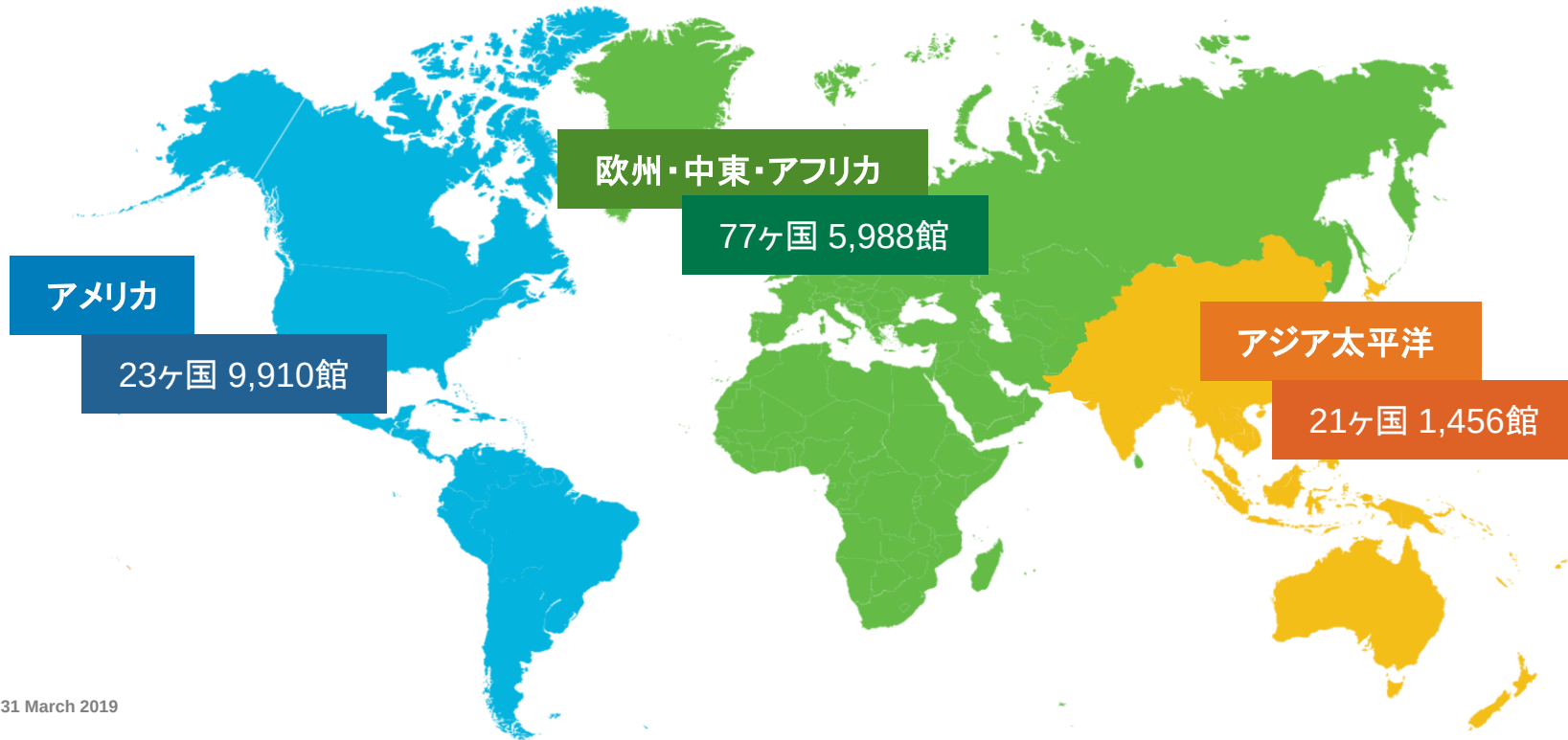
1. 電子化
→ それと共に資料形態が複雑化(OAなど)
2. グローバル VS ローカル:
言語、フォーマット、目録規則、コミュニティ
→ One Size Fits All にはならない
3. 図書館の貢献価値を高める
→ 一方で、効率的かつ持続的な運営を
4. 外部プログラム・リソースと繋がる拡張性・柔軟性あるシステム

OCLCの取り組み

- 非営利・メンバー制のライブラリーサービス機関
- WorldCat: 約4億5千万件の書誌情報と28億件の所蔵情報を擁す世界最大の書誌目録データベース
- 図書館システム・業務の共同運用サービスを開発・提供

**Because
what is
known must
be shared.®**

世界の図書館に支えられるOCLC: 121ヶ国17,000館以上が加盟



As of 31 March 2019

グローバルとローカルの新たな連携へ向けたビジョン:

- 各国の図書館運営、学術情報流通に合わせたサービス
- 世界の図書館・学術コミュニティと繋げる橋渡しを
- 基盤プラットフォームとして CBS (Controlled Bibliographic Service)

Syndeo™

Συνδέω (syndéo) = to connect

CBS実装例：各国の学術情報基盤パートナーとして

総合目録構築パートナー

- Australia (Libraries Australia)
- France (ABES)
- Germany (BSZ, GBV, HEBIS)
- Netherlands (GGC)
- UK (Jisc)
- Switzerland (SwissBib)

国立図書館パートナー

- Germany
- Netherlands

OCLCプラットフォーム技術を活用するが、運営は各国機関がコントロール



CBSプラットフォームの利点

各地域のローカル仕様にカスタマイズ

データ及び目録規則等は各国機関がコントロール

電子・冊子とあらゆる資料媒体に対応
BIB, LBD, LHR, AUTH, ...どのレコードタイプも管理

バッチデータ処理機能に優れる

マッチング・重複処理、FRBR化対応





英国JISC

(Joint Information Systems Committee)

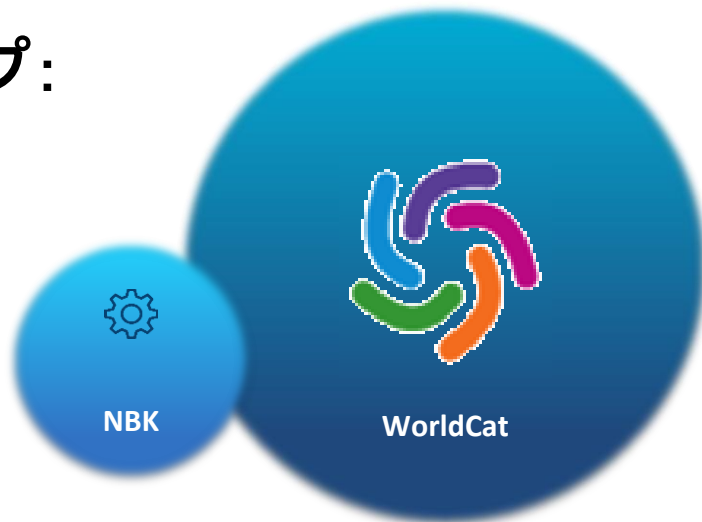
英国高等教育の学術情報基盤を支える組織。ネットワーク運営管理からコンテンツ収集まで、最先端の学術情報環境を整備。

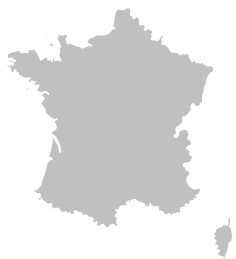


CBSを用いたOCLCとのパートナーシップ:

National Bibliographic Knowledgebase (NBK)

- 英国大学機関の書誌データを包括的に収集: 専門図書館や政府機関など、大学図書館以外も
- 運営の大幅な効率化。異なる機関ごとの柔軟管理
- コレクション管理・分析機能を強化
- WorldCatと同期で世界と繋がる





フランス ABES

フランスの高等教育書誌センター



CBSを用いた OCLCとのパートナーシップ:
sudoc

(フランス大学1500機関の総合目録)

- カタログフォーマットはUNIMARC。
これを継続活用可能。
- WorldCatから書誌ダウンロードして、
UNIMARCへ変換可能。
- WorldCatと同期：非英語圏書誌の世界での
発見可能性を向上





「在り方(2019)」の一つのオプション

外部ソース

NII Inter-University Research Institute Corporation /
Research Organization of Information and Systems
National Institute of Informatics

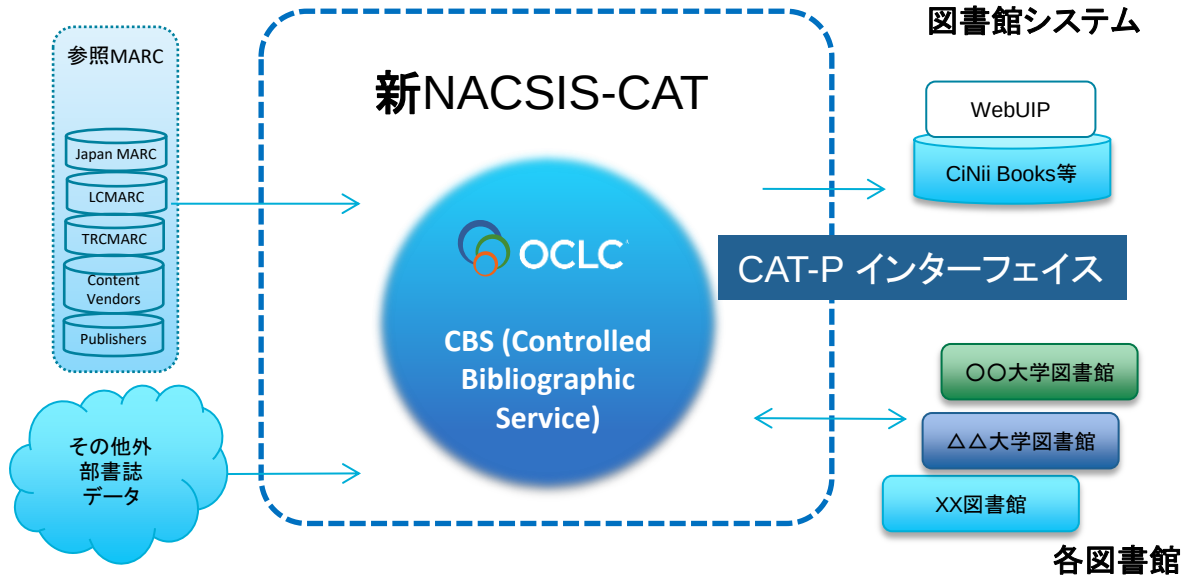
図書館システム

CAT-P利用環境を
保持したまま、内部管理
フォーマットを国際標準へ

ERMSと連携して、冊子と電
子の統合管理

将来 WorldCatと同期可能:
日本の書誌を世界へ発信

ILS・LSPサービスの選択肢
が広がる。新機能やコン
ソーシアム共同運用の道も



「在り方（2019）」と紀伊國屋書店

紀伊國屋書店ができるお手伝い

- 国内外の出版社・図書館ベンダーと交渉
- 電子化時代の図書館業務：サービス提供のパートナー
- 海外ネットワーク：欧米・アジア始め各国の大学・図書館とコミュニケーション
→ 最先端事例を踏まえたベスト提案をご提供